一般社団法人SOL

Annual report

事業報告書

2024

2025年5月

一般社団法人sol

代表理事　中山千春

01 法人概要

一般社団法人sol

一般社団法人sol（ソル）は、熊本県阿蘇郡高森町に拠点を置く福祉・教育団体で、2018年7月に設立されました。『福祉から世界平和へ』を理念として、『障がいあるなしに関わらず小さい子から高齢者までどこで生まれた育ったなど関係なく自然・地域・文化を大切に今ここにいる人々と支え合う』をミッションとして歩んでいます。「心の太陽を持つ3本足のヤタガラス」のロゴに象徴されるように、すべての人が自分らしく生きる力を育む場づくりを目指しています。

法人概要データ

活動理念とビジョン

solは、「今、ここ」で関わるすべての人々の大切な暮らしを実現するため、インクルーシブな場づくりと福祉の力を活用しています。具体的には、「自分らしく生きる力の成長やレジリエンス」「生きにくさや孤独や差別の予防」に取り組んでいます。すべての人が取り残されることなく幸福に暮らしていけるよう、エネルギー補給と安らぎの場を創り育んでいます。

団体概要

- 名称：一般社団法人sol
- 所在地：熊本県阿蘇郡高森町上色見1390-1
- 設立：2018年7月
- 代表理事：中山千春
- 理事：田中美也子、中家八千代、城野美佳子、中村里美
- 社員：中山孝次

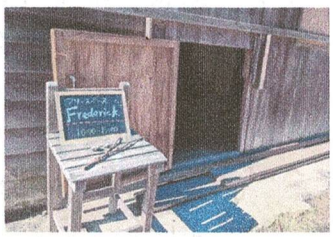
2024年度は『改』の年。
人材育成・各事業のスムーズな運営とフレデリック建築など場全体の環境調整

主な事業とプログラム

solは、以下のような多様なプログラムを提供しています：

- **妊婦・親子のつどい場「ひなたぼっこ」**：0～3歳の親子を対象に、わらべうたや季節の手仕事を通じて育児の時間を共にする場。
- **森のようちえん「おてんとさん」**：3～5歳の子どもたちを対象に、自然と関わりながら心と身体を育む日中預かり型のインクルーシブ保育・療育プログラム。
- **多機能型障がい児通所支援事業所「アトリエモモ」**：発達に困難を抱える子どもたちに、わらべうたや野外療育を中心とした支援を提供。
- **親と子の第3の居場所「フレデリック」**：小学生以上の子どもたちとその親を対象に、安心して過ごせる居場所を提供。現在、高森町教育支援センターとして公設民営運営
- **なんじゃもんじゃ自然体験教室**：月一回の自然体験教室を通じて、体験を重視した学びの場を提供。
- **保護者支援「親の育ち場」**：子育て中の保護者が共に学び、育ち合う場を提供。
- **複合福祉施設「LAくべる」**：全世代が利用できる地域の集いの場として、
  コミュニティスペース・コミュニティーカフェ
  コミュニティージム
  育ちの保健室などを運営。

県総合戦略策定
有識者ら初会合



２０２４年は2023冬高森町と協働で提出したB&G財団の子供の第３の居場所が5月に採択され、フレデリックの新築に向けて、農地転用申請・実施設計・建築と１年をかけてB&G財団・高森町・ミズタホーム・五瀬建築工房にお世話になる。2024、1月からアトリエモモも阿蘇フォークスクールへ移転し始動。4月からは旧上色見小学校は高森町へと返還され、一般社団法人solが高森町から2024年度借用契約し、管理運営を行なってきた。

各事業の横の連携を意識をしてもらい、地域や法人内でもsolの担う役割について知ってもらう

・妊婦・親子のつどい場「ひなたぼっこ」：

週1から週2回にして二年目。拠点をより森のようちえんにも現実的に登園しやすい

津町と拠点で開催。大津町では対象児の低年齢化うけ、森での散歩よりも水場やお寺をお借りしり、話会や手仕事を入れたりと０歳児でも参加しやすい動に変更しながら実施。拠点が決まらないことによ場の不安定さがあるも、来年度はオズの森さん・円満寺さんをお借りしながら菊陽町のキャロピアさんも利用し、より参加しやすい場所づくりと内容を工夫していく。育ちの保健室とも連携し、子育て講座なども開催して新規利用者にも繋げ、いち早く親の困りや相談に乗りやすい体制づくりを行なっていく

• 森のようちえん「おてんとさん」：

単発参加も含め、年少児１２名を含む２８名でスタート。ひなたぼっこでの活動が繋がり新入園児にもつながった。年少児へのサポートが必要であったため、スタッフも4人体制で行い、年度途中でも3名が新規レギュラーとなり、子供同士の関わりでの成長も大きく、保護者の繋がりも例年よりも支え合う関係となり、預け合いやカフェでの交流・LAくべるへの積極的参加へも繋がっている。しかし、新規入園児の獲得は毎年かなりの尽力が必要となっており、2025年度は６名の新規入園であるも、2025年度は継続的にSNS発信をしながら広報と森のようちえんの必要性を広めていきたい。

（2024年度　韓国より２視察団３０園✕2回　中国より教育視察８名来所　）

• 多機能型障がい児通所支援事業所「アトリエモモ」：

活動場所が変更したこと、新規スタッフも参入したこともあるが、昨年度に引き続き個別支援と集団支援の両方を継続実施しながら発達支援を実施。

年度始め報酬改定があったことで個別支援計画の再作成など児童発達管理責任者が尽力してくれた。学校とも連携して特に特性の理解と不登校との関連性も保育所等訪問支援や当年度から開始した東学園での学校作業療法で先生方への研修も含めて先生方の療育や子供たちの特性の理解が深まった年であった。しかし、学校によって差があるため、

2025年度は関係全学校との情報共有を含めた子供理解を高めていく必要がある。そのため作業療法士を新規に採用し、月２回Drがこちらで森の診療室として連携し、法人スタッフの公認心理師とも検査を通じていち早く保護者さんの療育の理解とニーズに答えられるように対抗する仕組みを構築する。高学年になるとスポーツや習い事でフェイドアウトしがちな家庭へどう継続して・卒業していくかも課題である。

各事業の横の連携を意識をしてもらい、地域や法人内でもsolの担う役割について知ってもらう

・**親と子の第3の居場所「フレデリック」**：
公設民営の教育支援センターとして二年目。常勤スタッフも増員し、町内の児童へもアウトリーチをしながら継続支援と学校やSSWとも連携。法人内のアトリエモモとも連携しながらいち早く特性がある場合は個別支援も入れていった。親の会も実施し、親同士の繋がりが今後も必要なことを再確認する。

そして、建物を建築という大きな事業も2024年度中に完了し、B&G財団からの助成を受け、高森町教育委員会の補助により開設費5000万・5月からの運営費120万✕3年間委託される。今後は高森町だけでなく阿蘇圏域の子供たちへの支援が可能となる。三年後の自律運営に向けても視野に入れながら運営し、何よりも関わる親子の細やかな支援に尽力する。
6月頃からみんなの居場所になるためにも月一地域食堂を開催し、第4金曜日は親子でご飯を食べて帰られるようにしいち早く親の困りにも対応していく予定。

・**なんじゃもんじゃ自然体験教室**：2024年度は夏のキャンプ事業を企画。企画からスタッフに任せつつ前任はサポートに回るが、開始までのスケジュールの甘さにより夏の2回のキャンプは各回5名ほども参加であった。スタッフの育成も課題となった。
2025年度は今回の反省を含め、どんな子に何を私たちは経験させたいのか再考し、今年度からは再度例年通りの月一回の自然体験教室を通じて、体験を重視した学びによる自己成長を子供たちと共にしていくこととする。

担当スタッフも前任に戻りスタッフの育成にこの一年勤め、スタッフは兼ねてから計画していた学生連携のために動き、大学生にも子供と共に成長するチャンスを与えキャンプカウンセラー育成をしながら4方よしの関係をつくる場として機能していく。2025年度は募集開始してすでに20名定員満員となっている。

- **保護者支援「親の育ち場」**：高森町の保護者支援委託をうけて四年目。昨年度からペアレントプログラムではなく、親御さんに自分自身の役割を下すエンカウンターグループとし中山の経験を活かし独自のグループカウンセリングとして確立したものを提供。2024年度はグループ6回性教育・親子整体を2回計8回実施。定員10名を超えることもあり、阿蘇療育センターやキリン財団の方も見学することも。参加者の満足度は高く、自分を置き去りにして子育ていている親にとって必要な場であった。2025年度は、このパッケージを他の地域にも広めては？と考えつつ。当法人内では公認心理師が築いているサポートプログラムを実施してみる予定。

各事業の横の連携を意識をしてもらい、地域や法人内でもsolの担う役割について知ってもらう

・**複合福祉施設「LAくべる」**：全世代が利用できる地域の集いの場として2024・11月に三年目に入る。地域おこし協力隊が運営

コミュニティスペース・コミュニティーカフェ

フリースペースとしては火曜日と木曜日、金曜日に森のようちえんの母中心のカフェイベントなどで使用。フリースペースの管理人の制度が今後どう管理していくかが課題、2025年度は当初三年計画でしていた時間預託をどうするかも課題である。

コミュニティージム

水曜日から土曜日まで11：００－１５:００までジムオープン。定期的に通ってくる方もおられるが、昨年度に比べると参加人数は減少。今後担当スタッフと分析して課題を抽出する。

育ちの保健室

月一回早期の子育てや発達の困りに対応するために開催。保健師による料理教室やスタッフの育ちの講座もひなたぼっこと連携して開催。

ひなたぼっこや口コミ・健診からの利用者がほとんどである。今後は早期療育児に対しての支援の必要性をどれだけ支援できるかが課題。経済面でも料金を取ることへの躊躇もあるため、企業やエッセイの売上などもこちらに回すなどの工夫をしていきたい

・**助成金事業**：2024年度

朝日新聞厚生事業団～発達障害と共に生きる豊かな地域生活助成事業

単年度採択100万円⇨11月から12月

熊本市現代美術館にて写真エッセイ展開催

1月から2月

ツタヤ菊陽展にて写真エッセイ展とイベント

キリン福祉財団～地域の力応援事業

採択30万⇨写真エッセイ集の制作→全国８００箇所に配布

B&G財団～子ども第３の居場所拠点開設・運営費助成9,360万円

2025年度

B&G財団～車両助成　5月セレナ

チャレンジ事業：熊本ソフトの村公募共同プレゼン→不採択